

チェコの政治情勢

主要要人

パヴェル大統領



ヴィストルチル
上院議長



ペカロヴァー・アダモヴァー
下院議長



フィアラ首相



現議会の構成(2022年10月現在)

政党名	下院	上院
ANO	72	5
市民民主党 (ODS)【与党】	34	28
無所属及び首長連合(STAN)【与党】	33	20
キリスト教民主同盟・人民党(KDU-CSL)【与党】	23	12
自由と直接民主主義 (SPD)	20	0
TOP09【与党】	14	5
チェコ海賊党【与党】	4	2
社会民主党(CSSD)	0	1
その他の政党・無所属	0	8
合計	200	81

最近の政治状況

- 2021年10月の下院選挙で**ODS・KDU-CSL・TOP09**の3党による連立SPOLUが躍進。11月には**ペカロヴァー・アダモヴァー**TOP09党首が下院議長に選出。与党第一党だった**ANO**は、下院で最多の議席数を有するも下野し、12月、連立SPOLUと**海賊党・STAN**の連立の5党により、**フィアラ**ODS党首を首班とする政権が発足。また、CSSD、共産党が史上初めて議席を失い、伝統的左派が下院に不在となる。
- 2022年9月・10月に行われた上院選挙では、連立SPOLUが大勝し、5党連立与党が全議席の8割以上を占める圧倒的多数を維持。2023年1月の大統領選挙では、政権に協調的姿勢を示す**ペトル・パヴェル**元NATO軍事委員長が当選(任期2023年3月～2028年3月)
- 他方、ウクライナ情勢等の影響でエネルギー価格を中心に物価高が進む国内では、政府が十分に対策を行っていないとの不満・不安も一部で高まっており、最大野党ANOへの支持も依然根強いほか、下院や地方議会で一定の勢力を持つ過激主義のポピュリズム政党「**自由と直接民主主義 (SPD)**」や、同じく反EU・反NATO的な主張を掲げる小政党らも、反政府デモを主催するなどして国内の不満を利用した勢力伸長を図っている。

対外関係

- EUとNATOのメンバーシップと、人権と民主主義などの基本的価値を外交政策の基礎に据える。伝統的に、EU拡大(ウクライナ及び西バルカン)や東方パートナーシップを支持。22年後半はEU議長国を務め、史上初となる欧州政治共同体サミットをプラハで開催した。
- ロシアのウクライナ侵攻に際しては、ウクライナへの軍事支援や難民受入れを積極的に行い、ロシアに対しては外交官の追放や一般のロシア人への査証発給停止、戦争犯罪追求など強硬姿勢を示す。
- 国防においては、EU、NATO、米国の結束強化を支持。ウクライナ侵攻を受け、2024年中の国防費GDP比2%達成を目指す。
- 一時は中国との経済関係強化を目指すも、期待した投資が得られず、現在の対中関係は低調である一方、台湾とは、2020年9月の上院議長の訪台を皮切りに、翌21年10月に呉「外交部長」、22年7月に游「立法院長」を受け入れ、23年3月は下院議長も訪台するなど関係を強化。
- インド太平洋を重視し、特に日本、韓国、インド、台湾との関係強化に関心。22年9月、欧州で仏独蘭に続き4番目にインド太平洋戦略を策定。